



学校だより
11月号

西戸山

令和5年10月31日
NO.393
新宿区立西戸山小学校
校長 篠塚 幸次



実りの秋

主幹教諭

朝夕の気温が肌寒く感じるようになりました。つい先日までは、いつまでも暑さが続くと困っていましたが、一気に秋の深まりを感じます。よく「〇〇の秋」という言葉が使われます。スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋…。皆さんには、どのような“秋”の楽しみがありますでしょうか。学校においても、この時期は様々な行事や取組を計画・実施し、子どもたちの生活が充実する時期でもあります。特に、先月は読書の秋が多かったような気がします。

読書週間では、子どもたちがおすすめの一冊を紹介する活動に取り組みました。また図書ボランティアの皆さんによる、朗読会、パネルシアターも行われました。思わず、本の世界に吸い込まれるすてきな時間でした。ありがとうございました。私自身も読書週間の時期に一冊の本を読みました。その本にこんなことが書かれていました。

「当たり前」をほめる

ほめることがなかなか見つからない人は、ほめることに対しての考え方が間違っています。何か飛び抜けてすごいことや、すばらしいことをほめなければいけないと考えているのです。

しかし、これなら誰でもほめられます。当たり前に行っていることをほめれば、自然にほめる数は増えます。飛び抜けたことだけをほめようとするから、なかなか見つからないのです。当たり前のことをほめ、当たり前に感謝し、当たり前前のことを謝れることが大切なのです。

「中谷彰宏著『ほめる』『あやまる』『感謝する』ですべてうまく行く」より学校生活に当てはめて考えると、ほめたり、認めたりできるところがたくさんあるなと思いました。

学校に登校してきた子どもに対して、

「今日も元気に学校に来たね。」

給食で毎日たくさん食べてくれる子に対して

「たくさんご飯食べているね。」

毎朝あいさつしてくれる子に対して

「あいさつがすてきにできていますね。」

くつを揃えている子に対して

「くつをきちんとそろえていますね。」

このように子どもは当たり前前のことをほめられたり、認められたりしているうちに、どんどん良い方向に向かっていきます。そして、子どもたち同士でもほめたり、認めたりすることが日常化していきます。そうすることで、当たり前前のレベルをどんどん上げていくことができるのです。

今月はふれあい月間となっています。児童、教職員、保護者が互いの『当たり前』を認め合い、心温まる居心地の良い学校になるよう日々の教育活動を進めていきます。

日	曜	主な行事予定
1	水	ふれあい月間始 安全指導 就学時検診 4時間授業
2	木	音楽朝会
3	金	文化の日
4	土	東京都教育の日
6	月	全校朝会 委員会⑧ 教育実習生(終)
7	火	読み聞かせ(低中)
8	水	4時間授業
9	木	ポプラ集会
10	金	避難訓練
13	月	全校朝会 クラブ⑦
14	火	読み聞かせ(低)
15	水	4時間授業
16	木	音楽会 児童鑑賞日
17	金	音楽会 児童鑑賞日
18	土	音楽会 保護者鑑賞日 5時間授業・給食あり
20	月	振替休業日
21	火	読み聞かせ(低中)
22	水	書写指導日 放課GO!
23	木	勤労感謝の日
24	金	
27	月	全校朝会 クラブ⑧
28	火	読み聞かせ(低高)
29	水	書写指導日 放課GO!
30	木	児童集会

※ 行事は変更が生じる場合があります。

今月の目標

思いやりや感謝の気持ちをもって生活しましょう。

